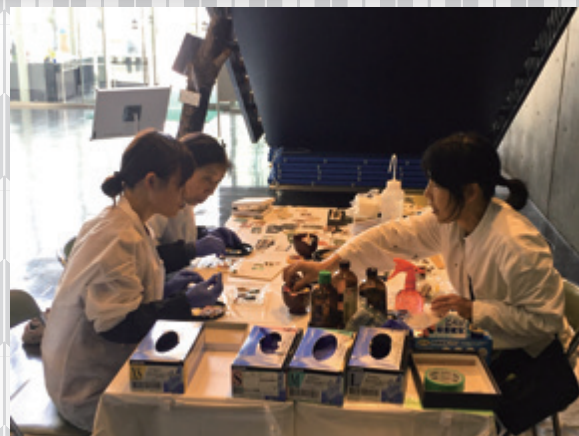




ふたはの桂

京都府大広報 **No.183** | 2019.3

KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY



明治150年京都創生フェスティバル

in 京都府立大学



特集 明治 150 年関連イベント

… 2

CONTENTS

地域連携・大学連携 … 4 公開講座・生涯学習 … 6 和食文化研究 … 6

国際京都学 … 7 国際交流 … 7

各学部・研究科の取り組み

文学部 … 8 公共政策学部 … 8 生命環境科学研究科 … 9

受賞情報 … 10 ふるさと納税のご案内 … 11

退職教員からのメッセージ … 12 ニューフェース … 12

<http://www.kpu.ac.jp>

特集

明治150年関連イベント

■ その1 明治150年京都創生フェスティバルの開催

平成30年（2018年）は、明治元年（1868年）から150年の節目の年に当たります。

明治150年に際し、明治期の京都の歴史を振り返るとともに、府内の企業・行政・大学が連携し、明治期における京都の先人達の取組や現在の活動等の情報発信、人材育成、今後の京都の新たな文化・産業等の飛躍に繋げる契機とするため、京都府の主催による「明治150年 京都創生フェスティバル」が10月6日（土）に京都学・歴彩館、教養教育共同化施設「稻盛記念会館」の周辺で開催されました。

当日は、西脇隆俊京都府知事もご出席の上、（株）島津製作所 代表取締役社長 上田輝久氏による基調講演などの記念式典をはじめ、大学等の研究活動の紹介や小中高生向け体験教室、明治期の京都の歴史や写真、図案等の企画展示、京都の伝統の食や特産品の販売、府内のご当地キャラクターのステージイベントなどのにぎわい・文化交流ゾーンなど、様々な催しが実施されました。

京都府立大学では、京都工芸繊維大学、京都薬科大学、京都府立医科大学と連携して出展し、生命環境学部による「明治から平成の景観変遷」や「漆の歴史と科学」、「新たな甘味料である希少糖アルロースの新機能」などの研究活動の紹介や、京都和食文化研究センターによる文学部和食文化学科の開設PRを行いました。

また、小中高生向け体験教室として、丸太切り体験や漆塗り体験、分子模型の実物とCGの製作、光硬化性樹脂によるアクセサリ製作、砂糖・希少糖アルロース・人工甘味料の比較をする利き「糖」実験などを実施しました。

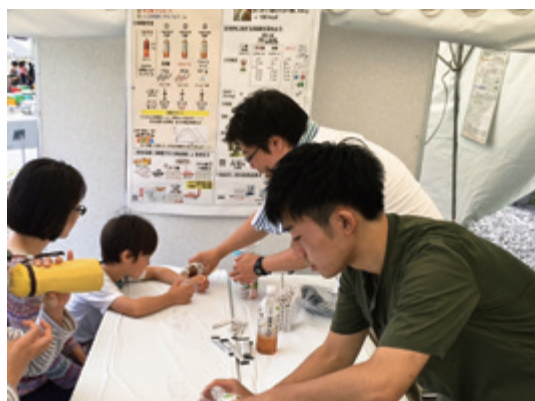
なお、京都工芸繊維大学からは、学生の製作による全日本学生フォーミュラ参加車両の展示や七宝焼き体験教室を、京都薬科大学からは、がんや認知症に有効な新薬開発などの研究活動の展示や吸水性ポリマーによる芳香剤づくりなどの体験教室を、京都府立医科大学からは、大学の歴史や現在の附属病院の様子の映像などの展示を行いました。

合わせて、同フェスティバルに関連する企画展示として、京都工芸繊維大学の前身である京都高等工芸学校で作成された明治期の図案資料の特別展示「明治時代の図案のつくり方～京都高等工芸学校の図案教育～」を京都学・歴彩館で、明治期の京都の人材育成や産業振興などに貢献した4大学の歴史や現在の研究活動のパネル展示「明治期における四大学～その歩みと近代京都の発展への貢献～」を教養教育共同化施設「稻盛記念会館」で10月上旬から中旬に開催しました。

フェスティバル当日は、台風の接近による悪天候もありましたが、4大学の研究活動等の紹介や体験教室には、延べ約800人の方が来場され、4大学の歴史や研究活動を広く知っていただくとともに、子どもたちの科学への興味・関心を高める貴重な機会となりました。



パネル展示「明治期における四大学
～その歩みと近代京都の発展への貢献～」



利き「糖」実験
(砂糖・希少糖アルロース・人工甘味料の比較)



分子模型の実物とCGの製作

■ その2 4大学連携研究フォーラムを京都府立大学と京都学・歴彩館にて開催

平成30年11月20日（火）に、4大学連携研究フォーラムを開催しました。本フォーラムは、京都府立大学、京都府立医科大学、京都工芸繊維大学、京都薬科大学の教員や研究者、大学院生等が一堂に会し、研究内容の情報交換等をすることで、4大学の学術交流を促進させることを目的としています。平成23年より毎年実施されており、今回は本学と隣接する京都学・歴彩館を会場として、全体で255名の参加があり、本学からは教職員25名と学生39名が参加しました。

フォーラムでは、本学生命環境科学研究科の東あかね教授が、「食を通した健康増進と生活習慣病の発症予防」をテーマに、昨年度の京都ヘルスサイエンス総合研究センターの共同研究で健康の維持・増進研究グループとして取り組まれた研究成果を報告しました。

その後、ポスターセッションが開催され、審査の結果、「病原性大腸菌O157抗体の特異性・親和性の向上」を題目に出展された本学生命環境科学研究科の大学院生バネガス ロサノ オスカル エステバンさんが、見事最優秀賞を受賞しました。

参加学生からは、「他大学の研究について、普段は知る機会がないので面白かった」「ポスターセッションは活気があって楽しかった」「様々な分野による講演が聞け、専門以外の知識を知ることができた」等好評を博し、盛会のうちに終了しました。

来年度は京都工芸繊維大学でフォーラムの開催が予定されております。

【プログラム】

○4大学連携による共同研究成果発表

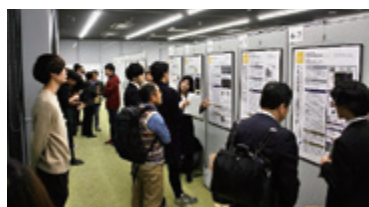
- (1)『公募型共同研究』について成果発表（研究代表者 京都府立医科大学 山脇正永 教授）
「デザイン思考を用いた地域高齢者のリスク・マネジメント：高齢者視点の地域健康デザインの提案」
 - (2)『京都ヘルスサイエンス総合研究センターの共同研究』について成果発表（4グループ）
 - ①医療住環境デザイン研究（研究代表者 京都工芸繊維大学 阪田弘一 教授）
「軽度認知症高齢者の自立的な在宅生活を維持する住環境デザインの構築」
 - ②発症・治癒機構解明研究（研究代表者 京都府立医科大学 浮村理 教授）
「Cryoablation法により放出された前立腺がん細胞成分による免疫賦活作用の検討」
 - ③創薬研究（研究代表者 京都薬科大学 赤路健一 教授）
「超高齢化社会特有の疾患に関連する蛋白質の機能調節因子探索」
 - ④健康の維持・増進研究（研究代表者 京都府立大学 東あかね 教授）
「食を通した健康増進と生活習慣病の発症予防」
- 基調講演 京都華頂大学 現代家政学部・食物栄養学科 武曾 恵理 教授
「男女共同参画による豊かなキャリアパス実現に向けて」



東教授による研究成果発表

○ポスターセッション及び学生ポスター表彰式

92点の出展があり、うち学生部門66点について、審査の結果、最優秀賞を2名、優秀賞を3名に授与。



ポスターセッション（学生部門）



交流会



ポスターセッション（教員部門）

地域連携・大学連携

ACTRポケットセミナーの開催

10月11日（木）に京都学・歴彩館にて府内の地域振興や産業・文化の発展等に貢献するための地域貢献型特別研究（ACTR）の成果報告会としてポケットセミナーを開催しました。当日は約80名のみなさまに参加いただき、平成29年度に実施した20件の研究のうち、食品ロスや丹後の歴史文化など5件の研究成果を報告しました。



食品ロス削減のための実態調査：精華町との共同研究	生命環境科学研究科 山川 肇 教授
地域の微かな歴史に耳を澄ます	生命環境科学研究科 松田法子 准教授
ICTを活用した薪の地産地消型流通ネットワーク構築による地域経済とCO2削減効果の検証	京都地域未来創造センター COC+ 奥谷三穂 特任教授
京丹後市・大宮売神社の文化財を調査して～古代丹後と王権の関係を探る～	文学部 菱田哲郎 教授
『丹後の海』の歴史と文化	文学部 藤本仁文 准教授

京都市中央市場連携事業「京の食育ワンダーランド」に食保健学科食事学研究室が出展しました

11月18日（日）に、京の食文化ミュージアム・あじわい館にて、京都市中央卸売市場×3大学（京都女子大学・平安女学院大学・京都府立大学）連携事業「あそぼう！まなぼう！あじわおう！京の食育ワンダーランド」が開催されました。

3大学の学生の企画で、小学生を中心に幅広い世代に食の魅力や奥深さを体験してもらい、健康的な食生活を普及啓発するイベントです。

本学からは、生命環境学部 食保健学科 食事学研究室 の教員・ゼミ生が「おさかなすごろく」コーナーを出展しました。学生手作りの大きなすごろくで、子どもたち自身が駒となり、普段食べている魚がどのようにして食卓にやってくるのか、遊びながら楽しく学んでいただきました。



地域創生COC+教育プログラム

宮津まちなみシンポジウムへ参加

平成30年10月8日（月・祝）に、宮津市の景観について考える「第9回 宮津まちなみシンポジウム」が開催され、NPO法人天橋作事組の演習に参加した本学の学生3名がCOC+地域創生フィールド演習での学びについての取組を発表しました。

府大生からは、明治29年に建てられたカトリック宮津教会の調査を紹介し、「曲線の多い天井は船大工によって建てられた、海に面した宮津ならではの建築」などの発表をしました。その他、宮津高校建築科や舞鶴工業高等専門学校の学生からも調査報告がありました。

その後、本学の宗田好史教授から「まちなみ景観と町の経済効果」と題して講演が行われました。パネルディスカッションでは、宮津市教育委員会の河森一浩氏から説明の後、舞鶴工業高等専門学校教授の尾上亮介氏の司会のもと、宮津市長の城崎雅文氏、宮津商工会議所の今井一雄氏のほか、本学からは宗田教授と奥谷三穂特任教授がパネラーとして参加しました。

宮津市出身の参加学生からは、「客観的に宮津市のまちを見ることで新たな発見もあった」との感想が聞かれ、COC+ならではの地域で学ぶ演習が学生にとって貴重な経験になりました。

※COC+とは：Center Of Communityの略で、地域で活躍する人材を育成するため、府中北部において農林漁業・六次産業など、様々な分野で活躍する「地（知）の案内人」と協働して、「地域創生COC+教育プログラム」を実施しています。



■全国公立大学学生大会（LINKtopos2018）へ参加

平成30年10月6日（土）から8日（月・祝）に静岡県立大学及び静岡市内のホテルを会場として、全国公立大学学生大会（LINKtopos2018）が開催されました。LINKtoposとは、地域貢献活動をしている全国の公立大学の学生が年に一度、一堂に会して日頃の活動発表をし、地域課題について話し合う全国大会です。本学からは、「美山木匠塾」「かごら」「COC+」の3グループ13名の学生の参加がありました。以下は参加者からの感想です。

美山木匠塾グループ 生命環境学部環境デザイン学科 1回生 植地 俊輔さん

大会に参加して一番驚いたのが、ボランティアや地域について考え行動する学生が全国にはたくさんいるということです。どの学生も自分の意見をしっかりと話し、相手の意見も聞いた上で新たな提案をしていました。やる人の意識次第で話し合いや発表がここまで有意義なものになるのだなあと感じました。これからは、大学内のコミュニティにとどまらず、もっと外を知るべきだと感じました。LINKtoposでの経験が自分の発火点だと思ってこれからの学生生活を送ろうと思います。

かごらグループ 公共政策学部公共政策学科 2回生 泉 ひかるさん

LINKtoposに参加するにあたりテーマとしていたのは、今までのかごらの活動をより良いものに改善し、長期的に継続できるようにするためにはどうすればいいかなどの課題解決の糸口を見つけることでした。1日目の分科会で各々が取り組んでいる地域活動について紹介し合い、悩みを共有できたことで、他団体のノウハウをかごらではどう生かせるかなど得るものが沢山ありました。2日目のワークショップでは多様性のあるメンバーでアイデアを重ね合わせ内容を深化させることができ強く感動しました。LINKtoposを通じて得た経験を、今後の活動に還元できるように努めます。

COC+グループ 文学部歴史学科 3回生 中江 瑛さん

自分たちが今まで活動してきた成果をアピールできる良い機会となりました。他大学の団体の熱意ある報告を聞き、自分たちの課題と向き合う時間もあり、互いを高め合うことができた3日間になったと思います。全国に自分たちと同じような活動をし、悩み、迷いつつも、誰かの為になる行動をしている学生がこんなにもたくさんいることを知り、勇気をもらえました。大きな成長を感じる充実した3日間になったと思います。

■日本学術会議in京都 の開催

平成30年12月22日（土）に「日本学術会議in京都 伝統文化と科学・学術の新たな出会い」が本学と京都学・歴彩館を会場として開催されました。日本の学術の更なる発展と地方創生へのより一層の貢献を図ることを目的に会議は開催され、本学からは、京都和食文化研究センターの佐藤洋一郎特任教授が「伝統文化と科学・技術・リベラルアーツ」というテーマで分科会のコーディネーターを務め、京都の主菓子（おもち）を題材に活発なディスカッションが行われました。

※日本学術会議：人文社会科学から自然科学分野まで日本の科学者・研究者84万人を代表する組織



公開講座・生涯学習

公開講座「桜楓講座（秋の部）」の開催

平成30年度公開講座「桜楓講座（秋の部）」を11月4日（日）と17日（土）に開催、約100名の方に受講いただきました。

4日は、文学部川瀬貴也准教授の講演「大震災と宗教 ^{なまず}一鯰絵と「社会参加する仏教」」。

災害の宗教的な意味づけから、現代社会で期待される宗教の社会的役割などについての解説や、江戸時代の安政大地震の直後に流行した ^{なまず}一鯰絵についての紹介があり、当時の日本人の宗教的心情を考察する機会となりました。

17日は生命環境科学研究科南山幸子教授の講演「ヘルシーエイジングのすすめー若い頃の食生活が老後を決める！」。

日本における認知症、アレルギー、不妊患者の推移や、生活習慣病・老化促進の要因、また、ヘルシーエイジングのための食事法などについて紹介があり、現代社会において、元気で長生きするための食生活を学ぶ機会となりました。



農場ユースカルチャーデーの開催

精華町に立地する生命環境学部附属農場では、府民の皆様へ農業に対する理解を深めていただくため、毎年度、小学生コースと成人コースの「農場ユースカルチャーデー」を開催しています。

今年度の成人コースは11月9日（金）に開催し、22名の方にご参加いただきましたが、遠方では京丹波町からお越しの方もおられました。

今回初めて、隣接する京都府農林水産技術センター生物資源研究センターと連携した取り組みとして行い、センターの静川主任研究員から「教えてほしい肥料のこと、農薬のこと」のテーマで講演いただきました。

前半は肥料の話で、三要素N（窒素）、P（リン酸）、K（カリ）の役割を勉強した後、実際に肥料の袋をみて、畑の面積がこれくらいなら肥料は何g必要かという計算方法の説明もありました。

次は農薬の話。作物ごとに指定された農薬を使うことの重要性、農薬のラベルに書かれた使用方法、散布方法、使用済みのビンの処理方法等々、農薬の概要や使用に関する注意点の説明がされ、実際にキャベツを使った農薬散布の実演をしていただきました。

90分という短い時間でしたが、時間が足りないほどたくさんの質問があり、農業への関心の高さがうかがわれ、少しでもいい作物を作ろうという参加者の熱意が感じられました。



和食文化研究

文学部 和食文化学科開設目前！

いよいよ4月1日、文学部和食文化学科を開設します。【和食文化学】という新しい学際領域を扱う学科ですが、下鴨キャンパス内の旧附属図書館棟を新たに7号館として改修し、一期生の学び舎として整備します。閲覧室だった空間に学生や研究者が集い、自由にカンファレンスができるラーニング commons のほか、和室や講義室も新たに設置。懐かしくも新しい校舎で新入生を迎えます。



写真：工事中、スケルトンにした元閲覧室（部分）

国際京都学

府大生×歴史館 コラボで探る京都学

京都府立大学の学生が、京都学・歴史館の所蔵する古典籍や史料を使って、京都の歴史・文化に関わる展示会「コラボで探る京都学」を行いました。以下は参加学生からの感想です。

文学部 歴史学科3回生 中江 瑛さん

今回行われた歴史館とのコラボ展示は、「日本文化史研究Ⅰ」という歴史学科の講義の一環で行われた初の試みでした。歴史館の職員の方や先生方のご指導・ご協力のもと、歴史館が所蔵する資料の中から、「京都の歴史」を語るにふさわしい資料を選び、読解・展示構成作り、さらには解説という博物館展示の重要な過程を経験しました。

私の班は天皇即位の年に行われる「大嘗会」という宮中行事の展示を行いました。次の大嘗会を迎える際の知識として私たちの展示を役立てて欲しいという想いを込めつつ、人目を惹く絵巻や写真を展示品に選ぶことで、当時の様子を想像しやすい展示構成となるように心がけました。どの班も資料の魅力を自分たちなりに表現して解りやすく伝える工夫を凝らしており、京都の歴史を様々な角度から見られる興味深い展示となりました。

展示に至るまでには苦戦する場面が何度もありましたが、その経験も含めて博物館展示の奥深さに触れることができたと思います。さらに3年間の学びで得た知識を発揮する場を得ることができたので、今後の励みになる大変思い入れ深い展示になったと感じています。



学生による展示解説の様子

国際交流

ポートランド州立大学公共サービス研究・実践センターと国際交流協定を締結

2018年9月に米国ポートランド州立大学公共サービス研究・実践センター（Center for Public Service: CPS）と国際交流協定を締結しました。CPSは、「全米一住みたいまち」として世界的に注目を浴びているポートランドのまちづくりを支える大学とコミュニティをつなぐ橋渡し役として、公共サービスの研究や実践に関する多彩なプログラムを国際的に提供してきた実績あるセンターです。

調印式では両センター長による覚書への署名と挨拶が行われた後、出席者の間で今後の交流のあり方などについて語り合い、その様々な可能性に期待が膨らむ場となりました。



生命環境科学研究科とプリンス・オブ・ソクラー大学自然資源学部が学術交流協定を締結

本学生命環境科学研究科は、タイ王国のプリンス・オブ・ソクラー大学（PSU）の自然資源学部と、2018年10月24日に学術交流に関する協定を締結しました。PSUは1967年に設立された国立大学で、現在はタイ南部の中心的都市であるハジャイをはじめとする5つのキャンパスに3万人を超える学生が在籍する大学です。これまで、本学とPSUの教員が相互に訪問して、研究セミナーや講義、シンポジウムでの発表等を行ってきました。今後は、植物や昆虫をベースにした農業問題解決に向けた共同研究が進められる予定です。



本学でPSU教員に講義をしてもらいました。
左からNarit博士（PSU）、武田准教授（本学）、Anurag博士（PSU）

学術交流のためイタリア訪問

2018年12月、京都4大学（本学、京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都薬科大学）とイタリア学長会議（イタリア全土の約40大学で構成）との学術交流シンポジウムのため、イタリアのパヴィア大学を訪問し、築山崇学長が本学を英語で紹介しました。

今後、京都におけるイタリア学術交流拠点の設置についても検討が進められています。



<宗田副学長「マルコ・ポーロ賞」受賞>

宗田好史副学長が、日伊の学術交流に貢献した研究者に贈られる「マルコ・ポーロ賞」を受賞、イタリア語で記念講演を行いました。



各学部・研究科の取り組み

文学部

壁を越える想像力
ー多言語アメリカ文学のアクチュアリティー

欧米言語文化学科 後藤 篤 講師

ニューヨーク市の中枢を占めるマンハッタンの南端、合衆国のみならず世界の金融市場を主導するエリアとして知られるウォールストリート。ドナルド・トランプ大統領の一挙一動に揺れる昨今、私は折に触れてこの地名の由来を思い出します。遡ること17世紀半ば、当時この地を治めていたオランダ人植民者たちが、先住民や、同じく東海岸にたどり着いた英国人による不意打ちを防ぐため、木材でできた防御壁を実際に建設したのでした。

東西冷戦の象徴たるベルリンの壁が崩れ去ってから早30年、嘆きの壁を訪れることにより中東に新たな火種を落としたトランプ大統領は、かつての植民地時代の記憶を呼び起こそうとするかのように、メキシコとの国境に万里の長城のごとき壁を打ち立てようとしています。極限まで加速したグローバリゼーションの弊害が惑星規模で叫ばれる今日、＜多から成る＞を標榜する多民族・多文化国家として発展を遂げてきたはずのアメリカは、ナショナリズムという名の巨大な壁の内側に孤独に身を潜めてしまうのでしょうか。

私は現在、20世紀を代表する越境作家と称されるウラジーミル・ナボコフの小説作品を中心にアメリカ言語文化を研究しています。ナボコフは渡米と同時期に作品の執筆に用いる言語を母国語であるロシア語から英語へと転換し、またその生涯においてフランス語作品も発表しましたが、近年のアメリカ文学シーンでは、例えば英語のみならずイタリア語でも旺盛な創作活動を繰り広げるインド（ベンガル）系のジュンパ・ラヒリのような、ナボコフの衣鉢を継ぐべく多言語を駆使して作品を生み出す移民作家たちが存在感を増しています。今後はナボコフ研究を主軸に、こうした現代アメリカ文学のマルチリンガルな展開、その言葉の壁を乗り越える豊かな想像力が紡ぐ物語のうちに、今日の国際情勢を文化動態論的視座から考えるための手掛かりを探っていきたいと考えています。



ナボコフの代表作である英語小説『ロリータ』は、作者自身の手でロシア語に翻訳されました。

公共政策学部

「わかつちやいるけどやめられない」に悩む人と
そのご家族を支える

福祉社会学科 山野 尚美 准教授

私の専門は、メンタルヘルス領域におけるソーシャルワーク（社会福祉援助）です。精神疾患のある方とご家族の生活上の困難の軽減・解決に向けた支援方略を研究しています。ソーシャルワークでは、医学における基礎医学と臨床医学の関係と同様に、理論と実践が深く結びついています。私自身も研究と並行して、大学卒業後の最初の職場である精神科病院に勤務していた時代より現在に至るまで、実践を継続しています（注）。

精神疾患の中でも物質使用障害（Substance Use Disorders）といって、アルコール、覚せい剤や大麻等の非合法薬物、鎮痛剤や睡眠薬等の売薬や処方薬などにより引き起こされる、依存症の人とご家族の支援に長く取り組んできました。

依存症は、国際疾病分類第10回改訂版（ICD-10）に「精神疾患」として記載されているにもかかわらず、

「意志が弱いだけ」「犯罪」とみなされることが多く、講演先で治療・支援の必要性に触れると、抵抗感を示される方もおられます。また「毎日飲んでいるわけじゃない」「ビールだから大丈夫」「普通の生活をしていたら、薬物依存になるはずがない」「生育歴に問題がある人だけになる」といった認識も多く見られます。

こうした誤解や偏見の影響もあり、依存症では、受診に至るまでが長期化しやすく、付随する生活問題も多いことなどから、ソーシャルワーカーの積極的な関与が期待されているところです。本学では、2008年に国家資格である精神保健福祉士の養成課程が開設され、今春には8期生が卒業します。今後は、多様なメンタルヘルスの現場で活躍する卒業生と一緒に、ソーシャルワーク実践に関する研究ができればと楽しみにしています。

（注）DASY（Drug Addiction Seminar for You）

フランクフルトの「安全に薬物を使用させるための施設」に貼ってあった注射器の処理についてのポスター



生命環境科学研究科

内臓感覚神経による食欲調節

応用生命科学専攻 動物機能学研究室

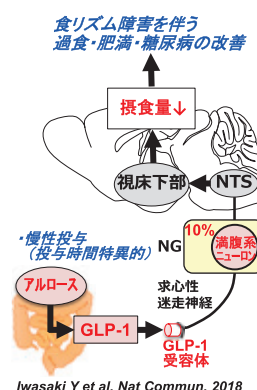
岩崎 有作 教授

脳・視床下部は全身のエネルギー状態に合わせて食欲を調節しています。我々は食後およそ20～30分で満腹感を感じると言われています。この時、摂取した食物の多くは未消化のまま胃内に存在します。従って、この早期満腹感には「求心性迷走神経」の関与が示唆されています。

「求心性迷走神経」は、末梢臓器と脳とを繋ぐ内臓感覚神経の1種で、末梢因子を受容して、神経情報として脳に伝達し、食欲を調節していると考えられています。しかし、求心性迷走神経に作用する末梢因子、及び、求心性迷走神経の生理・病態的意義や機能に関わるメカニズムについて、多くが不明でありました。そこで筆者は、求心性迷走神経の活動を測定する実験手法を樹立し、食後に分泌される消化管ホルモン（GLP-1など）や膵ホルモン（インスリンなど）が、求心性迷走神経の一部のサブクラスを活性化することを明らかに

しました。そして、これら食後ホルモンによる求心性迷走神経活性化が、満腹感創出に重要な役割を果たしていることを明らかとしました。

GLP-1 (Glucagon-Like Peptide-1) は、栄養素（糖、アミノ酸、脂肪酸）摂取で分泌される消化管ホルモンです。一方、筆者らは近年、ゼロカロリー甘味料の希少糖アルロースがGLP-1を選択的に且つ強力に分泌させることを発見しました。アルロースを過食・肥満・糖尿病を呈するマウスに投与すると、過食が是正され、肥満と糖尿病が改善されました。このアルロース作用は求心性迷走神経の機能を障害させると消失するため、求心性迷走神経の機能の重要性が明らかとなりました。今後、求心性迷走神経に作用する食品成分を探索・同定することで、脳機能（食欲・代謝・精神など）に介入できる機能性食品を開発することができるかもしれません。



生命環境科学研究科

木材中の多糖類を人工的に合成するための基礎研究

環境科学専攻 生物材料利用化学研究室

細谷 隆史 助教

木材の70-80%は多糖成分でできています。例えば木材中に含まれているセルロースは、私たちが普段口にしているデンプンとよく似た構造をしていて、単糖であるグルコースが多数つながった構造を有しています。木材中の多糖を人工的に合成できれば、人工合成した多糖と木材由来の多糖の諸物性を比較することで、木材の化学的、物理的特性をより深く理解することができます。例えば、グルコースを人工的に重合させて、セルロースや、結合位置や結合様式が異なった他のグルカンを自在に作ることができれば、木材中でセルロースが果たしている機能に対する鋭い考察ができるようになります。

しかしながら、単糖を自在に繋ぐための多糖合成反応（グリコシド合成反応）の化学は、有機化学の中でも、最も経験と勘が頼りにされる領域の一つで、望みの多糖分子を自在に設計・合成する手法は確立されていません。グリコシド合成反応における大まかなメカニズムは、糖分子の1位にトリフレート（OTf）基などの脱離基を有するグリコシルドナーへのアルコール類の求核置換反応です。しかし、ドナーへの直接的な反応の

他に、緊密イオン対（CIP）や溶媒分離イオン対（SSIP）を経た反応も進行すると考えられおり、そのメカニズムは大変複雑です。

上記のイオン対類は不安定な化学種で、実験的に検出することは非常に困難です。そのような背景もあり、イオン対類の実在性を疑う意見も存在するくらいです。当研究室では、化学反応をコンピューターの中で行うことのできる量子化学計算を用いて、図に示すグルコシルトリフレート α および β からのイオン対生成反応のシミュレーションを行いました。その結果、これらのトリフレートから確かにイオン対類CIP α 、SSIP、CIP β が生成することを証明することができました。今後は、より深いグリコシド生成機構の解明やそれを応用した合成法の開発を行いたいと考えています。

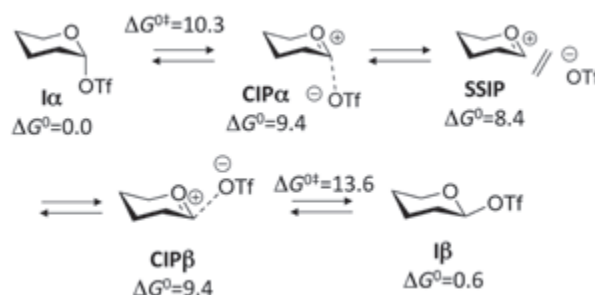


図 グリコシルトリフレートからのイオン対生成におけるエネルギー変化 (kcal/mol)

受賞情報

文学部

文学研究科史学専攻博士前期課程1回生 竹内祥一郎

文化的景観研究集会「ベストポスター賞」受賞

奈良文化財研究所景観研究室主催の「文化的景観研究集会」において、「丹波立杭の窯業景観の60年史ー『丹波の窯業』との比較を通じてー」の発表により、「ベストポスター賞」を受賞しました。

公共政策学部

公共政策学部・大島ゼミ

大学対抗政策研究集会「特別賞」受賞

京都府警交通企画課のポリスアンドカレッジ「高齢者の免許返納を考える」の大学対抗政策研究集会において、公共政策学部・大島ゼミ(2回生の恵真里菜さん、飯田伶耶さん、川原侑紗さん、倉谷大地さん、俵大地さん、楠藤瑞己さん、宮本純菜さん)が、様々な要求をもつ高齢者のニーズに合った柔軟な制限免許の制度を発表し、「特別賞」を受賞しました。

公共政策学部・窪田ゼミ

京都から発信する政策研究交流大会「大学コンソーシアム京都理事長賞」受賞

第14回京都から発信する政策研究交流大会(主催:大学コンソーシアム京都)において、窪田ゼミ(2回生の太貴青さん、浅田真浩さん、石川零一さん、桐永雄太さん、佐藤平蔵さん、田畑広樹さん、豊原英海さん、八坂太一さん、東佳佑さん、船越蒼馬さん、森風人さん)が「主権者教育の現状と政策評価ゲームによる新展開」の発表により「大学コンソーシアム京都理事長賞」を受賞しました。

公共政策学部・玉井ゼミ

京都から発信する政策研究交流大会「京都市長賞」受賞

第14回京都から発信する政策研究交流大会(主催:大学コンソーシアム京都)において、玉井ゼミ(2回生の小川千尋さん、榎浦紫乃さん、木下航弥さん、越野夕音さん、南部花穂さん、番留あゆみさん、新福早貴さん、山下裕也さん)が「個店の魅力創造と地域ネットワーク構築を目指してーC'mon baby 新町ー」の発表により「京都市長賞」を受賞しました。

生命環境学部

生命環境科学研究科応用生命科学専攻

矢内 純太 教授(土壌化学研究室)

中尾 淳 准教授(土壌化学研究室)

平成27年3月博士前期課程修了 谷口 央(土壌化学研究室)

「日本土壌肥科学欧文誌論文賞(SSPN Award)」受賞

2018年度日本土壌肥科学会神奈川大会において、「日本農耕地における可給態ケイ素濃度とその規定要因の評価」の発表により、「日本土壌肥科学欧文誌論文賞(SSPN Award)」を受賞しました。

丸山 美帆子 特任講師(生命構造化学研究室)

第11回「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」受賞

「光で作る薬剤候補物質の結晶多形(光(レーザー)を使い、「良く効く薬を安く」作れる基礎技術を開発)」のテーマにより、未来のリーダーとなる女性研究者を支援する「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」を受賞しました。

第1回「兵庫・関西 キャタピラー STEM賞」受賞

尿路結石症について、体内で結石が形成される機構を明らかにし、新たな予防・治療方法へとつなげる研究に取り組んでいることなどにより、第1回「兵庫・関西 キャタピラー STEM賞」を受賞しました。

岡 真優子 准教授(食環境安全性学研究室)

「欧文誌論文最優秀賞(Hypertension Research Award of Excellence)」

2018年度第41回日本高血圧学会総会(旭川)において「Macrophage-derived exosomes induce



inflammatory factor in endothelial cells under hypertensive conditions」の発表により、欧文誌論文最優秀賞(Hypertension Research Award of Excellence)を受賞しました。

博士前期課程2回生 津守 雄太(高次細胞機能化学研究室)

日本生物高分子学会 2018 年度大会「優秀発表賞」受賞

日本生物高分子学会 2018 年度大会において、「バクテリアの Zn2+輸送タンパク質 ZntB と構造類似なイネ由来の機能未知な膜タンパク質 OsZntBL の Zn2+ と Fe2+ 輸送能の評価」の発表により、「優秀発表賞」を受賞しました。

博士前期課程2回生 細江 雄飛(生命物理化学研究室)

公益社団法人日本生化学会「若手優秀発表賞」受賞

第91回公益社団法人日本生化学会大会において、「SH2 ドメインスワップダイマーが与える安定性と機能への影響評価」の発表により、「若手優秀発表賞」を受賞しました。

生命分子化学科4回生 川崎 菜希(生命物理化学研究室)

博士前期課程2回生 細江 雄飛(生命物理化学研究室)

第54回熱測定討論会「ポスター賞」受賞

第54回熱測定討論会(日本熱測定学会主催)において「DNA結合タンパク質 c-Myb R2R3 の構造安定性におけるイオン強度依存性」の発表により「ポスター賞」を受賞しました。

博士前期課程2回生 Vanegas Lozano Oscar Esteban

(パネガス ロサノ オスカル エステバン)(生命構造化学研究室)

第8回4大学連携研究フォーラム「最優秀賞」受賞

第8回4大学連携研究フォーラムにおいて、「病原性大腸菌 O157 抗体の特異性・親和性の向上」の発表により、「最優秀賞」を受賞しました。

博士前期課程1回生 若林 沙依(機能分子合成化学研究室)

第12回有機π電子系シンポジウム「Chemistry Letters 賞」受賞

第12回有機π電子系シンポジウムにおいて、「複素環を組み込んだ新奇 CPP 誘導体の合成」の発表により「Chemistry Letters 賞」を受賞しました。

博士前期課程2回生 吉田 圭史朗

(機能分子合成化学研究室)

第12回有機π電子系シンポジウム「ポスター賞」受賞

第12回有機π電子系シンポジウムにおいて、「キラルオリゴナフタレン類を不斉足場とし BODIPY 類を集積化した蛍光色素の合成」の発表により「ポスター賞」を受賞しました。

農学生命科学科4回生 中井 志帆(分子栄養学研究室)

ASIA PACIFIC NUTRIGENOMICS NUTRIGENETICS ORGANISATION APNNO 2018 「Best Poster Award」受賞

アジア太平洋栄養ゲノム栄養遺伝学機構 ASIA PACIFIC NUTRIGENOMICS NUTRIGENETICS ORGANISATION APNNO 2018 において「Genistein, daidzein, and resveratrols stimulate PGC-1β-mediated gene expression」の発表により「Best Poster Award」を受賞しました。

生命分子化学科4回生 猶原 伶菜(生命分析化学研究室)

日本土壌肥科学会関西支部講演会「優秀発表賞」受賞

2018年度日本土壌肥科学会関西支部講演会において「アメリカ西部乾燥帯の標高系列における土壌有機物と層間Alポリマーの放射線セシウム吸着阻害効果の解明」の発表により「優秀発表賞」を受賞しました。

生命環境学部

生命環境科学研究科環境科学専攻

神代 圭輔 准教授(生物材料物性学研究室)

一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会「平成30年度特別功績者表彰」受賞

一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会において、グリーン建材・設備製品に関する国際標準化事業において、木材・プラスチック再生複合材(WPRC)の国際標準化に規格開発当初より積極的に携わり、日本提案の規格発行に貢献したことなどにより、「平成30年度特別功績者表彰」を受賞しました。

梶田 照 特任教授(生物材料物性学研究室)

公益社団法人日本木材加工技術協会第36回年次大会「創立70周年記念特別功労者顕彰」受賞

公益社団法人日本木材加工技術協会第36回年次大会において、木質ボード部会の設立および運営など、長きにわたる協会運営への著しい貢献が認められたことにより、「創立70周年記念特別功労者顕彰」を受賞しました。



博士前期課程1回生 谷口 悠貴(住生活学研究室)

一般社団法人日本建築学会第11回近畿支部研究発表会「優秀発表賞」受賞

一般社団法人日本建築学会第11回近畿支部研究発表会において、「高齢居住者の視点にたった高経年マンションのバリアフリー改修手法の検討」の発表により、「優秀発表賞」を受賞しました。

博士前期課程2回生 岸 和実(生物材料物性学研究室)

公益社団法人日本木材加工技術協会第36回年次大会「優秀ポスター賞」受賞

公益社団法人日本木材加工技術協会第36回年次大会において、「原木段階における製材品の簡便な強度等級予測手法の開発」の発表により「優秀ポスター賞」を受賞しました。

森林科学科4回生 森下 真衣(森林植生学研究室)

第4回日本植生史学会「優秀発表賞」受賞

第4回日本植生史学会において「京都市八丁平におけるクリ(Castanea crenata)天然林の花粉生産量一定量の植生復元の基礎資料として」の発表により、「優秀発表賞」を受賞しました。

森林科学科4回生 上田 未央(木質生化学研究室)

第3回次世代生物研究会「優秀ポスター発表賞」受賞

第3回次世代生物研究会において「マツタケの液体培養における酸素の効果」の発表により「優秀ポスター発表賞」を受賞しました。

博士前期課程2回生 米澤 政人(建築意匠学研究室)

第2回Woodyコンテスト「佳作」受賞

第2回Woodyコンテスト(主催:京都府)において、「木包みの家」北山丸太を構造物として取り入れた住まいの提案により、「佳作」を受賞しました。

森林科学科4回生 堀山 彰亮(生物材料物性学研究室)

公益社団法人日本材料学会 関西支部 第13回若手シンポジウム「ポスター支部長賞」受賞

公益社団法人日本材料学会 関西支部 第13回若手シンポジウムにおいて「オイルパーム幹の材料利用に向けた研究」の発表により、「ポスター支部長賞」を受賞しました。

環境デザイン学科4回生 藤原 悠(建築意匠学研究室)
(他大学学生1名との共作)

未来のとびらコンテスト2018「三協アルミ賞」受賞

未来のとびらコンテスト2018(主催:三協立山株式会社 三協アルミ社)において「解体新処」の発表により「三協アルミ賞」を受賞しました。

博士前期課程1回生 金悠希(建築環境工学研究室)

日本建築学会大会(東北)学術講演会「若手優秀発表賞」受賞

2018年度日本建築学会大会(東北)学術講演会において、「児童と保護者の環境配慮行動に関する実態調査 京都府夏休み省エネチャレンジ参加者の分析」の発表により「若手優秀発表賞」を受賞しました。

ふるさと納税のご案内

ふるさと納税制度を活用した府立大学への寄附金募集がスタート！！

府立大学は、昨年、京都の文化・学術交流の新たな拠点施設である京都学・歴史館がグランドオープンするとともに、今年4月には、日本の伝統的な食文化を世界に向けて発信する新たな学科、「和食文化学科」が発足いたします。今後ともさらに、京都府における知の拠点として、グローバルな視点による、個と社会の新しい在り方の探求、人の暮らしと生態系との持続可能な関係の創造を基本コンセプトに新世紀の府立大学づくりの歩みを進めてまいります。

本寄附金は、このような活動の実現に向けて、本学学生の教育・研究活動の支援や魅力ある大学づくりのための環境整備等に活用させていただきたいと考えております。

次代を担う本学学生のために、ふるさと納税制度を活用したご寄附にご理解とご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

詳しくはチラシ・京都府又は府立大学ホームページでご確認ください。

ふるさと納税 京都府立大学

検索

※ご寄付にあっては、ゆうちょ銀行・郵便局・銀行からの振込、各種クレジットカードがご利用いただけます。

【寄附の状況】2018年12月末現在('18/11～)

合計 ¥800,000 (16件)

【寄附者のご芳名】

この度、ご寄附をいただきました皆様に感謝申し上げます。

2018年11月 中村 佐織 様

2018年12月 上野 勝代 様 小林 智宏 様 中島 正雄 様

菱田 哲郎 様

(掲載に同意いただいた方のみ掲載。五十音順)



退職教員からのメッセージ

府大での33年間

文学部 欧米言語文化学科 野口 祐子

長らくお世話になった府大を定年退職します。研究室の整理をしていると、卒業生からもらった写真や文章に、つい片付けの手が止まってしまいます。優秀な学生たちと同僚に恵まれた33年間でした。

府大に着任した時は文学部西洋文学専攻の所属で、まだ大学院もありませんでした。2008年からは欧米言語文化学科の比較言語文化分野教員として、それまでなかった「欧米から見た京都」などの科目を担当し、当初は自分でも新しいことを学びながら学生と共有するという綱渡りを

やっていました。授業の準備が大変でしたが、そこから研究分野が広がって、今の私があります。

府大のおかげで多くの出会いにも恵まれました。特に部局長として、職員の方々と共に日々の対応や大きな課題に取り組んだことで、視野が広がりました。職員の皆さんは共に奮闘した同志と思っています。

最近、学部・学科に頼れる若い先生方を迎えることができて、嬉しい限りです。これからの府大を担われる皆様には、府大らしさを生かした大学作りを期待しております。



府大での13年を振り返って

生命環境科学研究科 環境科学専攻 内田 保博

京都府立大学に着任して13年が経ち、定年を迎えます。着任当時は、実験設備が十分になく、載荷骨組、油圧ジャッキからコンクリート実験用の器具等様々なものを揃えていきました。また、当初少なかった研究室の学生も、徐々に増えていき、様々な実験もできるようになり、成果を上げることができました。

工学部建築学科から環境デザイン学科へ来たので、最初は戸惑うこと

が多くありました。本学科は幅広い専門教育、研究を行っており、学生の興味も建築だけでなく多様であり、それに応えることが大事だと思います。

京都には、伝統的な建築文化・環境があり、本学ではそれらを生かした教育、研究が行われています。私の専門は、鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造等の耐震性能であり、なかなかそれらの特徴を生かすことができなかったことが残念ですが、学科の協力を得ながら、教育・研究を続けてこられたことに感謝します。

本学のますますの発展を祈念しています。

控えめながら優秀な学生に感謝 (環境デザイン学科での16年)

生命環境科学研究科 環境科学専攻 佐藤 仁人

企業の研究員から府立大学に転身したのは2003年4月のことです。あっという間の16年間でした。着任してまず感じたことは、ゆったりとした時間が流れている、ということでした。その中で自由に研究できることを喜んだのを思い出します。二つ目は、学生がおとなしく控えめだが優秀ということです。そんな学生の皆さんと多くの研究成果を出せたことがうれしい思い出です。一方、困ったのは授業準備でした。企業で

は当然ですが授業はなく、研究中心ですので、いきなり15コマの授業をいくつも講義しなければならなかったことはかなりの重圧でした。さすがに最近では楽になりましたが、着任後何年間は、毎週末せせと授業準備をしたことを思い出します。もっとも、授業準備をするとその中から新しい発想が生まれ、研究にもつながりましたので、貴重な体験をさせてもらったと思っています。そんな私が何とかやってこられたのも皆様方のおかげです。ありがとうございました。これからこの新しい府立大学に向けて皆様方のますますの発展をお祈りします。



「なからぎ」の地で結実した教育・研究の成果に感謝

生命環境科学研究科 環境科学専攻 田中 和博

林学教育・研究の伝統校である本学に、平成10年4月に着任して以来、21年間お世話になりました。有難うございました。専門の森林計画学は、地域計画にも関ることですので、公立大学という立場で、行政機関とも連携しながら地域の具体的な課題に取り組めたことは大変やり甲斐のある仕事でした。京都モデルフォレスト協会や京都伝統文化の森推進協議会の設立に関わったことも良い思い出になっています。大学では、主

に森林GIS（地理情報システム）に関する研究をしてきました。学生・院生にも恵まれ、土地利用多様性指数（LUDI）等の指標を開発することができました。教育関係では、専門教育の他に、「環境論」「環境共生論」「京都の地域創生」等も担当させていただき、自分自身も成長したと思います。「なからぎ」の地で過ごした21年間は大変実りあるものでした。お世話になりました方々に、心から感謝申し上げます。本当に有難うございました。



長年の間、学生の教育や研究などの発展にご尽力いただき、本当にありがとうございました。

ニューフェース

■平成30年10月着任の教員紹介■

■公共政策学部 公共政策学科

准教授 三宅 裕樹

＜主な研究領域＞
財政学・金融論

私たちが安心して豊かに暮らせるよう、政府は様々な公共サービスを提供しています。その可能性を積極的に広げるのが金融です。戦後の急速なインフラ整備や政策金融を通じた産業支援は、その一例です。しかし、金融市場との付き合い方を誤れば、財政が「効率化」の論理に過度に晒され、政府、ひいては市民の日常生活を破綻に導く危険性もあります。ギリシャの近況はご案内の通りです。政府・財政がその本来の役割を果たしていく上で、金融市場とどのような関係を築いていくべきか。欧米の地方債市場を主たる対象に、この点を研究しています。

■生命環境科学研究科

応用生命科学専攻

准教授 田中 俊一

＜主な研究領域＞
タンパク質化学、タンパク質工学



酵素や抗体といったタンパク質は、食品、医薬、診断、化粧品、洗剤、製紙、排水処理など、我々に身近な多くの分野で利用されています。一方、自然界から得られる天然のタンパク質では能力が不足していて、そのままでは使いづらいケースも多くあります。私の研究では、タンパク質を「人工的」に改造して能力を高めたり、その改造を効率良く行うための新しい技術を開発しています。2018年ノーベル化学賞受賞となった進化分子工学（注：私が受賞者ではない）を基盤に、異分野技術とも積極的に融合させながら研究を進めています。

■生命環境科学研究科

応用生命科学専攻

助教 森本 拓也

＜主な研究領域＞
果樹園芸学



りんごやなし、もも、さくらんぼ等、私たちの生活に身近な果物を研究対象として、効率的な品種育成や省力化・高品質化につながる技術開発を目的に研究を行っています。最近では特に、異なる果物同士を掛け合わせる異種交雑について、附属農場が保有する豊富な遺伝資源を活用して、交雑親和性のメカニズム解明を進めています。これらの成果をもとにして今後は京都府のオリジナル品種作りにも挑戦したいと思っています。